1939年４月から訓導として勤務した古堅尋常高等小学校（沖縄島）における集合写真（喜舎場紀氏所蔵）。

二〇二五年一〇月刊行

ひとりの教員の目
そこからひろがる
戦前・戦後の
沖縄教育史
その現場と実践―

史料 近代沖縄教育史

――喜舎場英勝の生きた世界

一九二〇年代末から沖縄返還後まで、石垣島、与那国島や沖縄島において一教員として生きた喜舎場英勝（一九〇七―二〇〇一）。戦前から戦後へ――彼が生きた時代の教育の現場、その様相を残された豊富な史料から描き出すはじめての試み―。

本史料は職員会、学校行事などの翻刻九六点に加え、影印復刻による史料を収録（各計一〇二点）。編者三名による論考と「喜舎場英勝史料一覧（抄録）」「学校沿革誌・戦前期刊行の学校記念誌一覧」「参考文献一覧」「人名・事項索引」を併せ収録した本史料は、戦前から戦後へと続く沖縄教育史を展望する、あたらしい一歩となるだろう。

Fujisawa Kenichi 藤澤健一・Kondo Kenichiro 近藤健一郎・Hagiwara Mami 萩原真美

定価二二、〇〇〇円（本体二〇、〇〇〇円＋税一〇%）
ISBN 978-4-8350-8894-5 C3037
全1巻／B5判／上製／バクラム装／小函入／３４６頁
不二出版

史料 近代沖縄教育史

――喜舎場英勝の生きた世界

Fujisawa Kenichi 藤澤健一・Kondo Kenichiro 近藤健一郎・Hagiwara Mami 萩原真美

定価二二、〇〇〇円（本体二〇、〇〇〇円＋税一〇%）／ISBN 978-4-8350-8894-5 C3037
全1巻／B5判／上製／バクラム装／小函入／３４６頁

■1950年代の喜舎場英勝（喜舎場紀氏所蔵）。

喜舎場英勝は一九〇七年、沖縄・石垣島に生まれる。一九二八年に沖縄県師範学校卒業後、白良尋常高等小学校（石垣島）に訓導として着任。石垣尋常高等小学校（石垣島）、与那国尋常高等小学校（与那国島）、宇久田尋常高等小学校、古堅尋常高等小学校（ともに沖縄島）などの訓導を経て、一九四六年に依願休職。

戦後は石垣島の八重山高等学校附属中学校、白保中学校に勤め一九五六年、教職を退いたのちも沖縄県教職員共済会常務理事など歴任。二〇〇一年に死去。

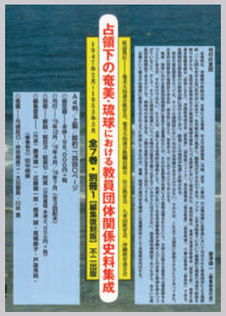
晩年は沖縄県復帰に尽力し、家永教科書裁判にもかかわる。また八重山歌工工四譜の継承者でもあり、喜舎場家に残された琉球王府以降の地方文書、「喜舎場英勝家文書」を長年保管してきた。本史料はそれとは別に、彼自身が教員として保存してきた一群の教育資料をもとにしている。

沖縄教育〈復刻版〉全36巻・別冊1

『琉球教育』とならび、近代沖縄における教育と文化を解き明かすうえで、その質・量ともに圧倒的に重要な『沖縄教育』。散逸はなはだしい本史料を、一九〇六年から一九四四年に至るまで可能な限り蒐集、復刻。沖縄近代史を語るうえで必見の基礎資料である。

編集：『沖縄教育』復刻刊行委員会（代表・藤澤健一）
解説：藤澤健一・近藤健一郎・梶村光郎・三島わかな
体裁：Ｂ４・Ａ５判／上製／総約13,200頁／全６回配本／別冊分売可
揃　定　価：594,000円（本体540,000円＋税10%）
配本定価各：　99,000円（本体　90,000円＋税10%）

占領下の奄美・琉球における教員団体関係史料集成 全7巻・別冊1



沖縄戦終結、そして米軍による奄美、琉球占領初期に、各群島で発行された教員団体機関誌を集成。『教育大島』『教育と文化』（奄美大島）、『宮古教育』『教育時報』（宮古島）、『新世代』（八重山）、そして沖縄教育連合会による『新教育』など、群島ごとの個性を強く反映した誌面からは、占領という揺るがぬ現実に直面した、沖縄の教員たちの現代史が浮かびあがる。

編集・解説：
藤澤健一・近藤健一郎・桜澤誠・高橋順子・戸邉英明
体裁：Ａ４判／上製／総約2,440頁／全３回配本／別冊分売可
揃定価：215,600円（本体196,000円＋税10%）

占領期 奄美・沖縄の青年団資料集 全4巻・付録1・別冊1

祖国復帰運動は、奄美・沖縄においてどのように展開されたのか？　米軍占領下の奄美・沖縄の青年団が残した『新青年』『青年奄美』『沖縄青年』『青年隊』だより『沖縄県青年団史・十周年記念』からは、祖国復帰を願う青年たちのほとばしる情熱が伝わる。復帰への若者たちの心情に加えて、当時の政治、経済、文化を理解するための必見資料群。

編集・解説：山城千秋・農中至
執筆：藤澤健一・櫻澤誠・近藤健一郎
体裁：B4・B5・A5判／上製／総約1,900頁／別冊分売可
揃定価：110,000円（本体100,000円＋税10%）
ISBN978-4-8350-8529-6

※ISBN等、詳細はHPをご確認下さい。

不二出版
〒112-0005
東京都文京区水道2-10-10
TEL 03-5981-6704
FAX 03-5981-6705
振替 00160-2-94084

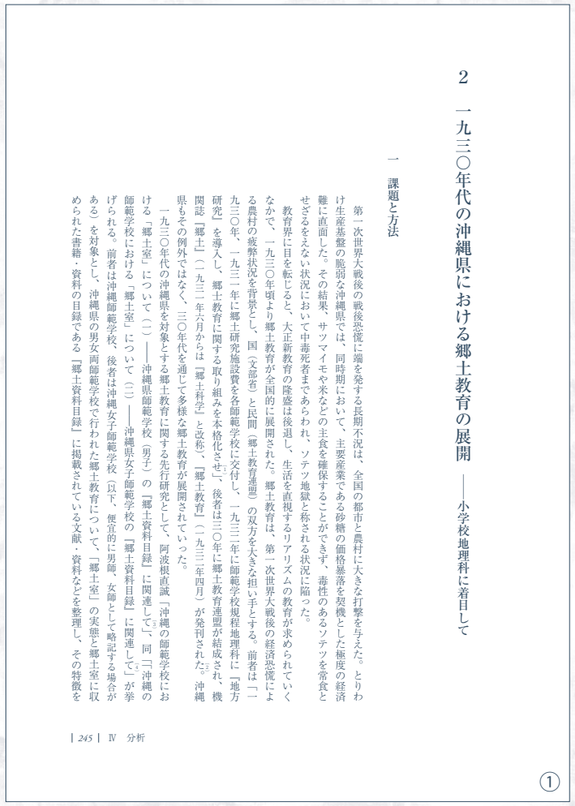
表示価格はすべて税込

内容見本

【影印版復刻】

③

【本文】



2　一九三〇年代の沖縄県における郷土教育の展開　――小学校地理科に着目して

一　課題と方法

第一次世界大戦後の戦後恐慌に端を発する長期不況は、全国の都市と農村に大きな打撃を与えた。とりわけ生産基盤の脆弱な沖縄県では、同時期において、主要産業である砂糖の価格暴落を契機とした極度の経済難に直面した。その結果、サツマイモや米などの主食を確保することができず、毒性のあるソテツを常食とせざるをえない状況において中毒死者まであらわれ、ソテツ地獄と称される状況に陥った。

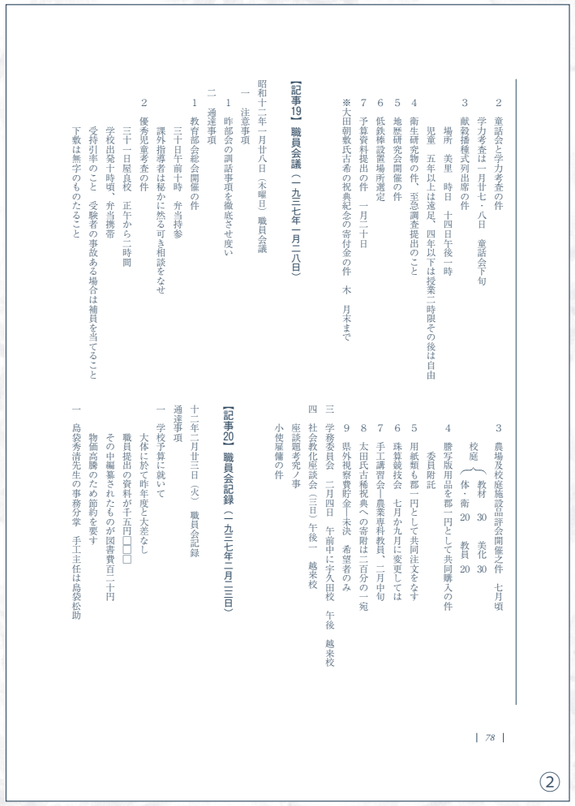
教育界に目を転じると、大正新教育の隆盛は後退し、生活を直視するリアリズムの教育が求められていくなかで、一九三〇年頃より郷土教育が全国的に展開された。郷土教育は、第一次世界大戦後の経済恐慌による農村の疲弊状況を背景とし、国（文部省）と民間（郷土教育運動）の双方を大きな担い手とする。前者は「一九三〇年、一九三一年に郷土研究施設費を各師範学校に交付し、一九三三年に師範学校規程地理科に『地方研究』を導入し、郷土教育に関する取り組みを本格化させ」、後者は三〇年に郷土教育連盟が結成され、機関誌『郷土』（一九三一年六月から『郷土科学』と改称、『郷土教育』（一九三三年四月）が発刊された。沖縄県もその例外ではなく、三〇年代を通して多様な郷土教育が展開されていった。

一九三〇年代の沖縄県を対象とする郷土教育に関する先行研究として、阿波根直誠「沖縄の師範学校における『郷土室』について（一）――沖縄県師範学校（男子）の『郷土資料目録』に関連して」、同「沖縄の師範学校における『郷土室』について（二）――沖縄県女子師範学校の『郷土資料目録』に関連して」が挙げられる。前者は沖縄師範学校、後者は沖縄女子師範学校（以下、便宜的に男師、女師と略記する場合がある）を対象とし、沖縄県の男女両師範学校で行われた郷土教育について、「郷土室」の実態と郷土室に収められた書籍・資料の目録である「郷土資料目録」に掲載されている文献・資料などを整理し、その特徴を、

| 245 | Ⅳ　分析

①

【翻刻】



2　童話会と学力考査の件
学力考査は一月廿七、八日　童話会下旬
3　献穀種式列出席の件
場所　美里　時日　十四日午後一時
児童　五年以上は遠足、四年以下は授業　時限その後は自由
4　衛生研究物の件　至急調査提出のこと
5　地然林設置場所選定
6　低鉄棒設置場所選定
7　予算資料提出の件　一月二十日
※大田朝敷氏古希の祝典紀念の寄付金の件　木　月末まで

【記事19】職員会議（一九三七年一月二八日）

昭和十二年一月廿八日（土曜日）職員会議
一　注意事項
1　昨部会の調話事項を徹底させ度い
二　通達事項
1　教育部会総会開催の件
三月日午前十時　弁当持参
講外指導者は秘かに然る可き相談をなせ
2　優秀児意考査の件
三月一日原良校　正午から一時間
学校出発十時頃、弁当携帯
受各引率のこと　受験者の事故ある場合は補員を当てること
下載は無字のものたること
3　農場及校庭施設品評会開催之件　七月頃
校庭（教材　30　美化　30
（体　衛　20　教員　20
4　勝写版用品を郡一円として共同購入の件
委員附託
5　用紙類も郡一円として共同注文をなす
6　珠算競技会　七月か九月に変更して
7　手工講習会・農業専科教員、二月中旬
8　太田氏古稀祝典への寄附は二百分の一宛
9　県外視察費貯金千円決　希望者のみ
三　学務委員会　二月四日　午前中に宇久田校　午後　越来校
四　社会教化座談会（三日）午後一　越来校
座談題考究ノ事
小使雇傭の件

【記事20】職員会議記録（一九三七年二月二三日）

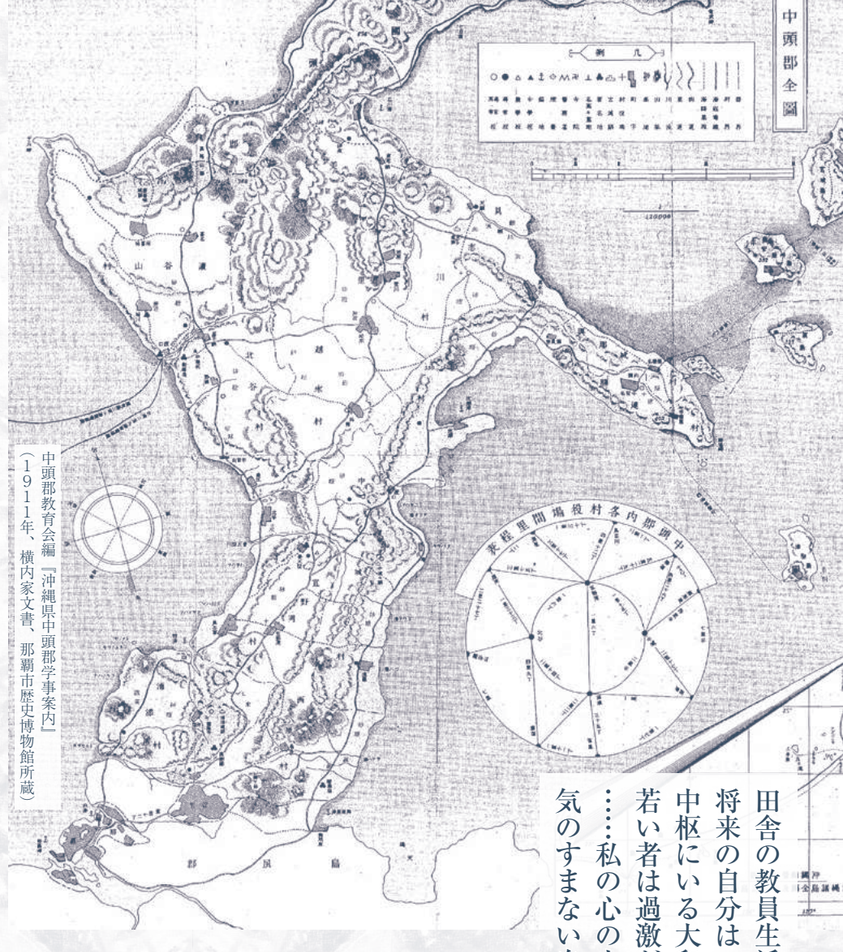
十二年二月廿三日（火）職員会記録
通達事項
一　学校予算に就いて
大体に於て昨年度と大差なし
職員提出の資料が千五円□□□
その中編纂されたものが図書費百二十円
物価高騰のため節約を要す
一　島袋秀清先生の事務分掌　手工主任は島袋松助

| 78 |

②

本史料の特色

1. 一九二〇年代末から沖縄返還後まで、戦前・戦後を通して、石垣島、与那国島や沖縄島において一教員として勤めあげた石垣島出身の教員・喜舎場英勝（一九〇七―二〇〇一）。その膨大な学校関係史料を整理・精選、編者による論考を附す。
2. 職員会、学校行事などの翻刻96点に加え、『学校経営案』（黒島尋常高等小学校、一九三八年）、「県民運動　標準語並礼法励行」（石垣国民学校、一九四三年）などの影印復刻による史料6点、合計102点を収録。
3. さらに「喜舎場英勝史料一覧（抄録）」「学校沿革誌・戦前期刊行の学校記念誌一覧」「参考文献一覧」「人名・事項索引」といった基礎情報も附す。



田舎の教員生活は私にとって愉快なものではなかった。その中にあると、将来の自分はヨボヨボの老朽教員になった姿でしか思い浮かばなかった。中枢にいる大和人はいばり、沖縄出身者は無気力で、年寄りは何かというと若い者は過激だと口を封じたがる。……気が滅入ってつきあいもおっくうだった。……私の心の中は荒れていても、表面はまじめで勤勉実直な教員でいなくては気のすまない自分の性格ときている。*

……これまでの沖縄教育史にかかわる研究は……沖縄出身教員の「荒れ」の一端であれ、その心根を深く分析することに成功してきたであろうか。筆者の応答は、みずからをふくめ懐疑的である。むしろ、主要課題と目されてきた、教育制度・政策史に比べて圧倒的に視点がおよぶことはなかったというべきである。……いったい、比嘉が体感した「荒れ」はいかにして醸成されたのか、史料的根拠をともないつつ、それをいかにして記述できるのか。近代沖縄における学校と教育についてのあらたな歴史像を描き出すことで、本書はこの課題に向きあう。

――（本書「はじめに」）

*引用は比嘉春潮「年月とともに」（『比嘉春潮全集』第四巻（評伝・自伝篇）、沖縄タイムス社、一九七一年、一二二―一二三頁）より。

本書目次

はじめに／凡例

Ⅰ　構　想　（藤澤健一）

一　本書の目的――喜舎場英勝史料の推進力／二　史料論からみた本書の位置と意義／三　本書の構成

Ⅱ　喜舎場英勝の教職歴とその活動――喜舎場英勝史料の基盤として　（近藤健一郎）

はじめに／一　教員になる／二　与那国へ／三　中頭へ／四　ふたたび石垣へ／五　行政職に／六　自保中学校長に、そして強いられた退職／おわりに――教職退職後のこと

Ⅲ　喜舎場英勝史料

史料（翻刻・復刻）凡例／一　校務関係史料／二　喜舎場英勝「研究訓導派遣願」一九三七年八月／三　黒島尋常高等小学校『学校経営案』一九三八年／四　沖縄県師範学校『第二十八回初等教育研究会案内』一九三九年／五　登野城国民学校『第十六区国民学校研究会案内』一九四二年、石垣国民学校『第十七区県指定研究会案内』一九四三年／六　石垣国民学校「県民運動　標準語並礼法励行」

Ⅳ　分　析

1　近代沖縄の郡市における教員の組織化過程――隣校研究会はいかに運営されたのか　（藤澤健一）

一　課題と方法／二　波及性――中頭郡を事例として／三　役職者／四　財政的根拠／五　結論と課題

2　一九三〇年代の沖縄県における郷土教育の展開――小学校地理科に着目して　（萩原真美）

一　課題と方法／二　郷土教育の展開／三　沖縄師範学校地理科における郷土教育／四　小学校地理科における郷土教育／五　結論と課題

おわりに／付録（喜舎場英勝史料一覧（抄録）／学校沿革誌・戦前期刊行の学校記念誌一覧／参考文献一覧）／人名・事項索引

喜舎場が1930年代に勤務した宇久田尋常高等小学校（沖縄島）の様子（同校発行『昭和12年３月　卒業記念帳』。喜舎場紀氏所蔵）

①萩原真美「1930年代の沖縄県における郷土教育の展開：小学校地理科に着目して」（245頁）。
②本書Ⅲ「喜舎場英勝史料」の「１ 校務関係史料」には職員会儀、運動会をはじめとする学校行事、地域懇談会など、96点の史料を翻刻で収録。下は「記事19　職員会議（1937年１月28日）」「記事20　職員会記録（1937年２月23日）」など（78頁）。
③上は『第16区国民学校研究会案内』（登野城国民学校、1942年10月）の冒頭頁。これら６点の史料は影印版にて収録した。